

北海道社会事業協会洞爺病院
リハビリテーション科言語聴覚士

井馬 あゆみさん



☆424☆

「家族」と思い向きを合っ

「常に自分の家族と思っ
て患者さんと向き合うこと
を心がけています」。今年
4月、北海道社会事業協会
洞爺病院(略称・洞爺協会
病院)に言語聴覚士として
就職。高齢者を中心に、疾
患などでのみ込む力や機能
が落ちていく人への訓練や
脳血管障害などで言葉がう
まく話せない人のリハビリ
が主な業務だ。

学生時代の実習先が洞爺
協会病院だった。「雰囲気
が良く、スタッフの方が温
かいところにはかれました。
今の上司にも憧れ、ここ
に入職して学びたい」と
思いました」と就職先とし
て選んだ理由を語る。

言語聴覚士として勤務し
て2カ月が経過。「思った
よりも仕事は難しい」と話
す。専門学校生の実習で
は、「学生だから」と許し
てもらえた部分もあった。
今は違うので責任と緊張感
を持って業務に取り組んで



「上司や先輩に少しでも近づけるように、技術を身に付けたい」と意気込む井馬さん

いま・あゆみ 壮瞥町内の小中学校、室蘭東翔高校、専門学校北海道リハビリテーション大学校を卒業後、今年4月から現職。趣味はドライブ。壮瞥町出身。22歳。

「全く言葉を発せなかつた患者さんが、一言、二言と言葉が出るようになる」と、自分のこのようにうれしかったですね」と笑顔を見せる。

「上司や先輩に少しでも近づけるように、技術を身に付けたいです」と目標を掲げていた。(池田勇人)

それぞれの患者に合ったリハビリの内容を考えるのも仕事のひとつだ。1日に5、6人を担当する。時間は1人当たり20、40分。「呼称カード」と呼ばれる道具を使い、カードに描かれた物を口に出して言うってもらう。「呼称課題」などを通して、リハビリをサポートする。